



『我らの必要を満たして下さる父なる神様』

説教者: 鄭南哲牧師

聖書箇所: マタイの福音書6章9-13節/暗唱聖句: 箴言箴言30章7-9節 (Rev. Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間もお変わりなく、お元気でしたか。我々は通常祈るというのは自分中心で、自分の為に、自分の願い、望みを聞いて下さるよう求める手段ぐらいで考えていた我々の祈りでしたが、イエスキリストが教えて下さった正しい祈りはそれと違って“天にいます私たちの父よ。”から我々を通して父なる神の御名があがめられるために、今日も我らに父なる神の御国を体験出来るように、父なる神の御心通りに行われるようにまず祈るという順番でした。

この意味は、祈りは単なる人の願い通りかなえてくれる手段ではなく、父なる神が子供である我々と対話をしながら親密に交われる祝福、そのものである事が分かります。そして、人の願いを求める前に、父なる神の最善なる御心を探り、求め、御力で成し遂げられる最高の祝福のものである事も確かめ、改めて教えられました。世の多くの人々が考えているようにいつも人が願い、求める通り左右され従ってその全部を答えて下さる神だとそれは真の神ではなく、まるで人が神みたいになっているような気がします。そのような祈りはイエスキリストがこう祈りなさいと教えて下さった祈りとは大分差があることにも気づかされたと思われまます。

“天にいます私たちの父よ。我らの祈りと神の子どもとして、日々ふさわしい生き方と行いを通して、聖なる神の御名があがめられ、あなたに栄光を帰することができますように。今日も父なる神の国が、我らの心、思い、生活、家庭、関わっているすべてのところに来ますように、神の御国となるように、神の御心が全てなされるように、父なる神よ。どうか私を、私たちを治めて下さい。守って下さい。導いて下さいますように！”と祈ることにより、祈る者の特権とその祝福について大切に学んで来ています。

しかし、愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！絶対誤解しないで下さい。イエス様が教えて下さった主の祈りは、祈る我らがまず、優先に、父なる神の御名、神の国、神の御心になるように求めるようにという意味であって、今の人の必要さについて祈ってはいけないという意味では決してありません。その証拠が今日の本文の11節です。

「私たちの日ごとの糧を今日もお与え下さい」(新共同訳:「わたしたちに**必要な糧**を今日与えてください。)」

***日ごとの糧の意味: ①実際日々私たちの食べ物である**

今日の11節で、私たちがぜひ注目すべきところがあります。それは、今日教えられた祈りが“私の日ごとの糧”では“私たちの日ごとの糧をお与えて下さるように”でした。どんな意味でしょうか。自分だけではなく、食べ物、助けが必要な全ての人々の為に、その食べ物や必要が与えられるように祈ることをイエス様は教えて下っています。

我らが信じている天の父なる神様は、日々生きる為に必要な食べ物や着る物さえも与え、支えて下さるお方であることを聖書ではよく証して下さっています。

創世記28章20節では神様の人であるヤコブが自分の必要を神様が与えて下さったことについてこう告白しています。「ヤコブは誓願を立てて言った。「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る衣を下さり、」ここでヤコブは食べるものと着る物さえも実際神様がすべてをお与えてくださったと証しています。

申命記8章3～4節に、神は40年間も荒野での神を信じ、従っていたイスラエルの民に日々生きる為に必要な物を与えて下さった神様であられることを教えて下さっています。

「3あなたの神、主がこの40年の間、荒野であなたを歩ませられたすべての道を覚えていなければならない。それ

は、あなたを苦しめて、あなたを試し、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心のうちにあるもの知るためであった。4それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。5この40年間の間、あなたの衣服はすり切れず、あなたの足は、腫れなかった。」

世界のUN事件委員会の食料特別調査官だったスイスのジュネーブ大学のジャン・ジラ教授によると、世界人口の中8億2～5千万人(9人に一人)が今も、世界中飢餓で慢性深刻な栄養失調で苦しんでいる人々が23%にもなっています。東南アジアの人口の18%(5億5千万人)、アフリカの人口35%(1億7千万人)、ラテンアメリカやカリブ海人口の14%が食べる物が少なく飢餓で苦しんでいます。地球村の反対側では、肥満や食べ物のゴミ処理で苦しんでいます。アメリカで生産できる穀物潜在量だけでも世界の人々が食べれるし、フランスの穀物生産量だけでヨーロッパ全人口が食べて生きれるのに、どうして今も飢餓がこんなに発生しているのでしょうか。

ユニセフ協会によると、今も世界で5.6秒に一人の小さな子供のいのちが5歳の誕生日を迎えられずに消えていると訴えています。(日本内でも昨年基準で、235万人の子どもたちが満足に御飯が食べられない環境に置かれているという報告があります。2年前の厚生労働省によると、日本の子どもの9人に一人が貧困に苦しんでいるとされています。日本にとっても飢餓、食料問題は決して他人事ではないということが分かります。その為、最近キリスト教会たちの中でそんな子どもの為に子ども食堂を運営する教会が多いのです。)

もちろん、今日本にいる我々は、この日ごとの糧(食べ物、食料)が足りないからより、食品ロスが深刻な問題の国なので、今日の祈りを祈る必要性がまったくないかも知れません。しかし、自分に今食べ物が溢れているから、祈らなくて良い祈りでは決してありません。今も、地球村の5人の一人の子どもが食べる物がなく亡くなっている現実を覚え、今日も生きるために食べ物が与えられるように祈らなければなりません。

世界の教会の歴史を調べて見ますと、初代教会の時から中世時代に至るまでは出て来た変な一つの信仰のやり方がありました。それは‘禁欲主義’という間違っただけの信仰の現わしと形でした。もちろん、初代教会時代にはとても敬虔な信仰者もいましたが、初代教会の時代から中世時代に至るまで教会の中では、禁欲主義という特徴はあり、禁欲主義は教会の中で二重的、二分(にぶんほう)的でした。つまり、霊は尊いものであって、肉体と物質や現実は全部汚れたものであって、卑(いや)しいもののように分けて考えたわけです。ですから、時々肉体的な欲望やこの世への関心、必要さが生じる時には自分の体を虐待したり、この世は世俗(せぞく)だから離れ、全てと断絶し、隠れて住む場合もありました。神様は使徒パウロを通して初代教会にそのような間違っただけの禁欲主義的な信仰に関してこう指摘しました。

テモテへの手紙第4章1節以下の、特に3-4節も読んで見ましょう。「彼らは結婚することを禁じたり、食物を断(た)つことを命じたりします。しかし食物は、信仰があり、真理を知っている人が感謝して受けるように、神が造られたものです。:4神が造られたものはみな良いもので、感謝して受けるとき、捨てるべきものは何もありません。」と言いながらこのような禁欲主義的な信仰を惑わされないように、心を奪われないで気をつけるように教えられています。人の食べることも、体に必要なものにも信仰が必要であり、食べものをも、捨てたり、軽んじく思ったりするのではなく、神様から与えられたものとして、大切に感謝して受けるべきであることをも教えられています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜこの話をするのですか。ここで私たちも間違わないように覚えるべきことは何でしょうか。自分に具体的な必要のために祈ることを決して信仰がないとか、信仰

が弱いからそんなふうに祈りをするのだとむやみに判断してはいけないということです。却って祈らずに、人間的な頭や考えをもって心配するのが不信仰であって、自分に必要な事を具体的に祈る事は正しい信仰の姿であり、イエス様が教えて下さった通りの正しい祈りである事を忘れないでください。

そして、それだけではなく、そのように祈る我らに、今も食べれず苦しんで助けが必要な人々に我らが、分け与えることが出来るように祈る責任と使命が与えられている祈りであります。

“私の日ごとの糧”では“私たちの日ごとの糧をお与えて下さるように”でした。どんな意味でしょうか。

神様が私たちに必要なすべてを与えて下さるのは自分だけではなく、助けが必要な人々の為の分け与える分まであります。自分だけではなく、私たちの日ごとの糧を、つまり、教会の各兄弟姉妹に、主の教会にも、等しく日々必要なすべてが満たされますように祈る事であります。そして私たちの助けが必要な人々にも分け与えることができる分まで求めれば、いかがでしょうか。

この祈りの中には自分だけではなく、私たちの必要すべてを具体的に父なる神様が与えて下さるように祈るように命じ、教えて下さっていることから、共同体信仰と執り成しの祈りの大切さを教えて下っています。つまり、自分だけではなく、私たちの日ごとの糧を、つまり、教会の各兄弟姉妹に、主の教会にも、等しく日々必要なすべてが具体的に満たされ、与えられるように祈る事であります。ですから、そう祈る為には、他の兄弟姉妹たちに毎日何が具体的な状況を知り、一番必要であるか愛の関心を持たなければなりません。

毎日個人の一番必要さを主に祈り、牧場、教会の兄弟姉妹たちの日々一番の必要に全て与えられますように私も続けて毎日切に祈ります。我らの教会の全神の家族にも全ての必要さに主が必要な分を父なる神様が豊かに与えて下さいますように心からお祈り申し上げます。アーメン！

*日ごとの糧の意味:②食べ物に限らず、今日一日を生きるために我らに一番必要なもの

(新共同訳聖書では、「(新共同訳:「わたしたちに必要な糧を今日与えてください。」)

イエス様は、人に必要な者として、まず、日ごとの糧のために祈るように教えて下さっています。

先ほど言われたように、一次的には実際食べ物であります。毎日の食べ物のために、祈ることはその程度の意味だけではありません。「日ごとの糧は毎日生きるために一番必要なもの」をも意味します。人によっては、今日一日、健康が与えられ守られなければ生きれない人がいます。安全が守られなければ、死にたい衝動に心捕らわれている方々にとっては心の平安がなければなりません。夫婦間系が守られなければ、子どもが守られなければ、職場での働きが守られなければ生きれない、愛がなければ、信仰がなければならぬ方々など今日一日に生きるために、人それぞれ一番必要なことが人々によって異なるでしょう。

ですから、日ごとの糧というのは単なる食料、米、パンだけで限らず、今日一日中自分が生きるために、具体的に一番必要な事、大切な事を主に求め、祈るように教えて下さっている意味であります。イエス様は私たちに今日の一日に生きるために、一番大切に必要なることを祈るようにと教えて下さっているのです。

イエスキリストは、“私たちは日ごとの糧を今日もお与えてください。”と毎日の自分の一番必要さを具体的に祈るように教えられています。

93年8ヶ月5日間まで、この世を生きながら、5万回以上祈りを聞かれたジョージ・ミュラ-先生は2000人超えた親がいない孤児の子どもたちを預かりながら、たった一度も人に借りたことも、ものごいしたこともなかったそうです。彼はただ真実な父なる神のみを信頼し、毎日愛する主の祈りを心から信じ、従ってこのように懇切に祈られました。“愛する主よ。今日もあなた様が愛するこの小さな命たちのために、私たちに必要な日ごとの糧をお与えて下さい。”

私たちにいつも励ましとなっているピリピ人への手紙4:19節では、「また私の神は、キリストイエスの栄光のうちにあるご自身の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。」と約束されています。

お互いに、今、今週、毎日何が一番必要であるか、具体的に祈り課題を分かち合い、共にその場で、また一週間毎日祈ることのために、牧場での深い交わりと正直な祈り課題の分かち合いは重要でしょう。このプロセスなしで、私たちの日ごとの糧をお与え下さるように具体的に祈ることが出来なくなります。毎日自分含め、私たちの毎日一番必要なものが与えられるように、お互いの為にも関心を持って、共に祈り、共に助け合うクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！

*日ごとの糧の意味:③神様への絶対信仰が必要な祈り

イエス様が教えて下さった祈りの中には一週間とか一ヶ月分の糧のためではなく、日ごと(毎日一日の分)の糧というものでした。その日その日に、毎日必要な糧の分のための祈ることをイエス様は教え、命じて下さっていることに注目しなければなりません。

愛する信仰の家族みなさん！私たちが心から求め祈れば、我々の必要なすべてを満たして下さると約束されています。しかし、日々という限定された神様の御意図を忘れてはいけないことは、そうじゃなければ、人はいつも、きりがない自分の欲張りや欲しがる通り、必要以上を要求しようとすることを、ご存じだったからではないでしょうか。“日ごとの糧”これは明日も神様がまた祈る全ての者に与えて下さることを絶対信じなければ、その信仰がなければ感謝しつつ、安心して祈れないでしょう。毎日必要な分を求め、頂きながら、毎日生きておられる神を体験出来るように、自身の力で生きるものではなく、徹底的に父なる神に頼りて、すがりて、委ねて生きる事が出来ますように！毎日神の御力、御助け、満たしを体験出来るように、父なる神様の私たちに対する配慮であり、神様の御約束であります。

同じ内容が書かれているルカの福音書11章3節を読んで見ますと、「私たちの日ごとの糧を、毎日お与えください。」と書かれています。ここで毎日が強調されています。なぜ、どうして毎日つまり、一日の分だけを祈るようと、それはどういう意味なのですか。これは自分の必要のために捧げる祈りではありますが、決して人の贅沢や欲張りのための祈ってはいけないことを教えて下さっています。すなわち、その日、今日の一日を生きるために、自分の一番大切な必須(ひっす)のために祈りなさいという意味なのです。

出エジプト記でイスラエルの民は、食べる物を求めた時にも、毎日一日の分だけを神様は与え食べさせて下さったのです。「たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった。自分が食べる分に応じて集めたのである。(出エジプト記(Exodus)16章18節)」私たちが心から求め祈れば、我々の必要なすべてを満たして下さると約束されています。しかし、日々という限定された神様の御意図を忘れてはいけないことは、そうじゃなければ、人はいつも、自分の欲張りや欲しがる通り必要以上を絶えず要求しようとすることを、ご存じだったからではないでしょうか。

*“日ごとの糧”これは明日も神様がまた祈る全ての者に与えて下さることを絶対信じなければ、このように祈れません。この世に来られたイエスキリストも、我々の現実な必要についてもよく関心を持っておられた方でした。日々必要なすべてを与えて下さる父なる神を信じている人々は、アグルのように祈る事が出来るでしょう。

「二つのことをあなたにお願いします。私が死なないうちに、それをかなえてください。むなしいことと偽りのことばを、私から遠ざけてください。貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で、私を養ってください。私が満腹してあなたを否み、「主とはだれだ」と言わないように。また、私が貧しくなって盗みをし、私の神の御名を汚すことのないように。(箴言30章7-9節)」、「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えてください。」 アーメン！